

令和6年度 学校関係者評価の報告

- 1 本年度の重点目標
- 進んで学び、温かく、生き生きとした子どもの育成
- 2 本年度の経営方針
- 【「生き生きと 心も体も健康・Active」な教育課程
～みんなの笑顔につながる教育活動の推進～】
- 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

評価の見方

- ・A・B・Cの三段階で評価を行っています。
- ・評価者評価（右の欄）にある数字は、Aを3点、Bを2点、Cを1点として集計した数値です。（評価者6名なので満点は18点）

分 野	評 価 項 目	自 己 評 価		学校関係者評価	
		達成 状況	改 善 の 方 策	自己評価 の適切さ	改善策 の適切さ
「心の栄 養」を育む	探究が持続する学習の構築や 子どもの意志ある活動につな げる働きかけを行うことで、子 どもの主体性は高まったか。	A	「自ら学びのコントローラーをもって学びを高める姿 とは」を重点に、校内の研究部会や研修会、日々の教 材研究の充実を図った。これからも、我々教員は授業の 充実に努めていく。	A	A
	札幌らしい特色ある学校教育 を推進することで、子どものふ るさと札幌への思いは高まった か。	A	今年度は、スキー場の変更と移動方法の工夫によって、ス キーを滑る時間を増やすことができた。今後も、雪や読書、 環境という観点で教育課程を見直し、有効な指導法や教 科横断的な指導を取り入れていけるようにする。	18	18
学校関係者評価 委員による意見	・授業を参観し、子どもたちの活発な様子から、教師が「教えること」よりも、子どもが「考えること」を重視して いることが伝わってきた。 ・自主性、主体性を伸ばしていく取組は、とても重要。家庭や地域にも広げてほしい。子どもによる差も大きいので、 発信が得意な子や、サポート役が得意な子など、それぞれのよさを引き出せると良い。				
「命を大切 にした指導」 を推進する	道徳教育を中心に、教育活動全 体を通して豊かな心を育む指導 を進めることで、子どもの行動 や心の変容は見られたか。	A	道徳教育の充実により、子どもたちが自ら挨拶をし、仲間 と良い関係を築けている。更に効果をあげられるよう引き 続き教育活動全体で指導の充実を図る。	A	A
	日頃から安全に関する指導を行 うことや、いじめや不登校への 兆候を早期に発見し迅速に対応 することで、子どもが安全に、安 心して学校生活を送ることはでき ていたか。	A	シャボテンで毎日の健康観察を行い、また学期毎にアンケ ートを実施し、悩みやいじめ等の把握した。月一回の生徒 指導委員会で情報共有も行っている。これからも、いじめ 案件や不登校の未然防止・早期対応を心掛け、教職員全 体で情報の共有を行い、有効な手立てを考えていく。	18	18
学校関係者評価 委員による意見	・多様性の時代なので、子どもとどう向き合い、寄り添うかが大切。いじめや不登校の“基”を見付けるのは大変だが、 シャボテンや定期的な情報共有が、早期発見・早期対応に役立つと思う。子どもたちが悩みなどを気軽に相談 できる先生方でいてください。				
「健康教育」 を推進する	授業での運動量の確保や「ノホ ロスポーツウィーク」の推進によ り、子どもの運動習慣が醸成さ れ、体力の向上につながったか。	B	今年度もノホロスポーツウィークの取組を位置付けたこと により、一定の効果はあった。ただ、運動習慣が身に付けら れていない児童がいるのも事実である。来年度は、「縄跳 びカード」の取組の充実を図り、スポーツウィークの取組を 継続・発展させていく。	A	A
	教科学習や総合的な学習の時 間、食指導や保健指導、出前授業 等を通して、子どもが健やかな生 活習慣を身に付けようとする意識 は高まったか。	A	今年度も、栄養教諭や外部講師をお招きし、食指導や保健 指導、出前授業の充実を図った。更なる生活習慣の定着の ために事前事後指導を確実にやっていく。	18	18
学校関係者評 価委員による 意見	・報道によると、北海道の児童の体力が全国平均より低いとのことなので、体力向上の取組は必要だと感じる。今 年は小雪だったが、スキー学習や雪合戦など様々な工夫を行っていることが伝わった。 ・出前授業が多種多様で素晴らしいと思った。教科学習だけでは学ぶことのできないことも多く、子どもたちの世 界が広がって良い。				

家庭・地域との連携	参観懇談や個人懇談、普段の連絡のやり取りを通して、保護者と連携し、子どもの成長を共に支えることはできたか。	A	今年度は、懇談会を1回増やした。日頃から電話等で保護者と情報の共有を図っており、子どもの様子を家庭と学校で共有し、連携することで、子どもの成長を支えることができている。今後も一層の連携が図れるよう、家庭との情報共有を丁寧に行っていく。	A 18	A 18
	パートナー校である上野幌中学校と連携し、活動に取り組むことで、系統性・連続性のある「課題探究的な学習」が充実したか。	A	今年度は、6月に中学校の授業2本を参観し、10月に小学校の授業を全員公開した。小中の「総合的な学習の時間」9年間の整合性を図っている。6年書記局の児童が中学校生徒会の生徒と連携を図り共同で活動を行った。来年度は、教員の連携を更に強め、9年間の育ちを全教職員で意識できるようにしていく。	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	・共働きの家庭が増えている中でも、ノホロの丘小の保護者の関心や参加率は高いと思う。保護者との情報共有・連携は今後も重要である。学校側の丁寧な関わりによって、保護者や子どもたちの安心につながると思う。 ・中学校との連携が素晴らしい。ぜひ幼保との連携も強くしていきたい。地域全体で子どもたちを育てていくという意識をみんなで共有していきたい。				
学年・学級経営	子どもの育ちなどの情報を日々の打合せや生徒指導委員会で共有することで、学年で児童を育てる学年経営が充実し、よりよい子どもの育ちにつながったか。	A	教職員の間で子どもに関する情報を学年打合せや会議の場で共有することで、担任のみならず多くの教職員で子どもに関わることができている。今後も継続して丁寧な情報共有を行い、積極的に関わることで、全教職員で子どもの育ちを支えていく。	A 18	A 18
	合同授業や教科担任制、専科指導を取り入れ、複数の目で子どもの育ちをみとることで、子どものよさや可能性を引き出すことができたか。	A	学年合同授業、教科担任制、専科指導の取組は、子ども理解と、子どものよさを引き出すという観点で有効だと考える。来年度も担任の専門性や子どもの特徴を加味しながら、有効な指導法を模索していく。	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	・学校全体で子どもたちを見守り、支えていることがよく分かった。先生方の合同授業、教科担任制、専科指導等は、先生の得意なことが生かされ、やりがいにつながると思う。先駆的であり、素晴らしい取組だと思う。 ・休み時間に先生と一緒に遊んでいる様子も見られる。こうした日常的な関わりが、子どもの安心や信頼を生む。				
進んで 温かく 生き生きと働くための職場づくり	授業の充実に向けた研修や教育課程の改善に向けた提案や実践を行うことで、よりよい授業や教育課程の構築を行うことができたか。	A	今年度は、第2回教育実践協同研究会を4日間日程で実施した。他校の先生に授業（子ども）を見ていただき、多くの助言をいただいた。来年度は、子どもと保護者が伸びを実感できるよう、「授業と評価の一体化」をより進めていく。	A 18	A 18
	教職員が自分の仕事に誇りを持ち、仲間の仕事を尊重することで、協働的に取り組む意識と同僚性が向上したか。	A	教職員それぞれのよさを認め合い、各々が責任感をもって仕事に取り組むことができている。若い先生が今後も増えることが予想されるので、ノホロの文化として協働の意識と同僚性を継続していけるようにする。	A 18	A 18
学校関係者評価委員による意見	・ノホロの丘小の教職員の雰囲気がとても良いと感じる。教職員の一人一人が、自分の仕事にやりがいと責任を持ち、互いに連携を取りながら、より良い方向へ向かおうとしているからだと感じる。そうした教職員の雰囲気は、子どもたちや保護者の方々にも伝わると思う。 ・先生方も忙しいと思うが、子どもたちを第一に考え、授業力向上やその他の教育活動の計画・実践もしており、ありがたいと感じる。				